

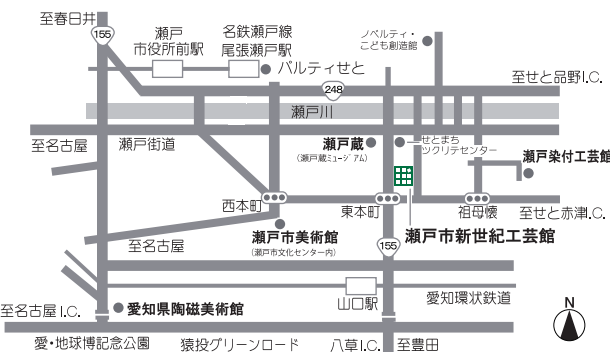


研修生・修了生の展覧会情報や
新世紀工芸館の様々なイベント
をチェック！



瀬戸市新世紀工芸館

陶芸・ガラス工芸コース 研修制度案内 2022



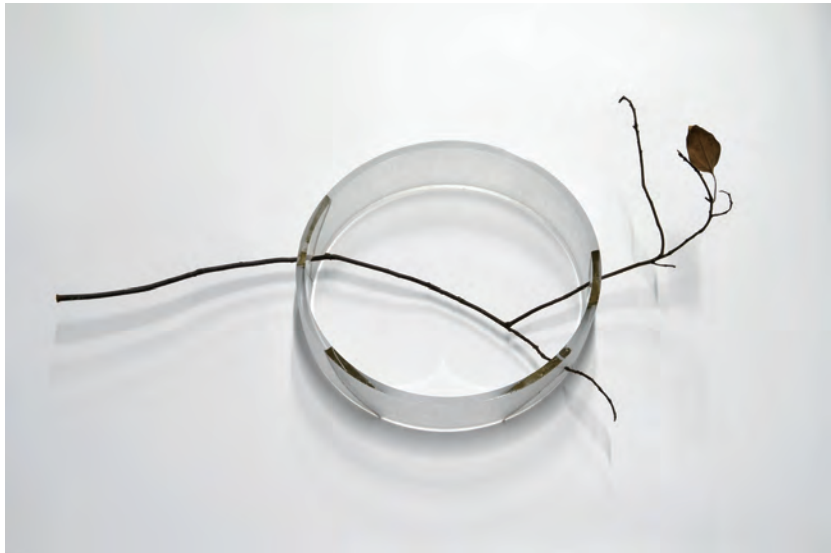
瀬戸市新世紀工芸館 Seto Ceramics and Glass Art Center

◎ 交通アクセス

- 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸駅」から南東へ徒歩約7分。
- 東名高速道路「名古屋I.C.」から車で約30分。
- 東海環状自動車道「せと赤津I.C.」から車で約10分。

◎ 問い合わせ先

〒489-0815 愛知県瀬戸市南仲之切町8-1番地の2
TEL: 0561-97-1001 FAX: 0561-97-1005
URL: <http://www.seto-cul.jp/new-century/>
E-mail: shiseiki@gctv.ne.jp



■ 研修期間はどうか。
得たものは大変多かったです。その中には瀬戸市、新世紀工芸館でなければ得られなかったものもあります。迷いや困難な事があっても周囲の方々やスタッフの皆様のサポートで乗り越える事が出来、作家として作品を発表する様々な機会を与えていただきました。

■ 今どんな制作活動（作家活動）をしていますか。
百貨店やギャラリーにて個展または企画展等で作品を発表させていただいております。

■ 当館での研修を考えている方へ。

カリキュラムを設けていない所が最大の魅力ではありますが、その分、作家として自主性や自己管理が求められる環境だと思います。
ご自身が学びたい事、やりたい事が決まっているのなら最良の環境ではないでしょうか。
新世紀工芸館での研修経験は長い作家人生の中で大きな経験となると思います。



当館展示棟企画展
「増原嘉央理 高橋奈己-表現の形-展」



第 5 期
ガラス工芸コース修了生

藤掛 幸智 さん

1985 年 愛知県 出身
2005 年 秋田美術工芸短期大学 工芸学科
ガラス工芸専攻 卒業
2006 年 愛知教育大学 教育学部 造形文化コース
ガラス専攻 科目等履修生 修了
2009 年 瀬戸市新世紀工芸館 ガラス工芸コース 修了
2011 年 金沢卯辰山工芸工房 研修者 修了
現在 愛知県個人工房にて制作

主な作品・收藏先
ヴィクトリア&アルバート美術館（イギリス）
レットガラス美術館（ドイツ）
Alexander Tutsek Foundation（ドイツ）
コーニングガラス美術館（アメリカ）
卯辰山工芸工房、黄金崎クリスタルパーク
富山市ガラス美術館 など

■ 新世紀工芸館での研修を決めた理由。
毎日自由に制作に取り組み、ガラスと向き合う時間を充分に得ることができたため、新世紀工芸館を選びました。

■ 研修期間はどうか。
定期的な講師の方招き、講義や講評をしていただく機会もあるため、自分の作品を冷静に見る事もでき、多くの刺激を得て、また制作に励む、そんな充実した年間を過ごしました。

■ 今、どんな制作活動（作家活動）をしていますか。
自身の工房を立ち上げ、制作をはじめました。発表活動は、国内ギャラリーでの展示や海外のアートフェアにて発表しています。



2008 年 「平成19年度 武蔵野美術大学卒業制作」 陶磁賞
2009 年 「めし碗グランプリ展」 審査員特別賞（同2012）
2010 年 「第40回 ながさき陶磁展」 インテリア・工芸部門 最優秀賞
2011 年 「第21回 日本陶芸展」 入選（同2015,2017,2019）
2012 年 「そば猪口アート公募展」 安曇野市教育委員会賞
「第5回 菊地ビエンナーレ展」 入選（同2021）
2014 年 「第2回 陶美展」 入選（同2016(2作品),2017,2018）
2015 年 個展（銀座 黒田陶苑 / 東京）以降毎年開催
2016 年 「第56回 東日本伝統工芸展」 朝日新聞社賞
「日本陶磁協会現代陶芸奨励賞 北海道展」 現代陶芸奨励賞
「伊丹国際クラフト展」 審査員賞
「第63回 日本伝統工芸展」 入選（同2018,2020）
「日本陶磁協会賞受賞作家展」（銀座和光 和光ホール / 東京）
2017 年 「第58回 東日本伝統工芸展」 入選（同2020,2021）
2018 年 「第66回 日本伝統工芸展」 日本工芸会新人賞
2019 年 「第7回 陶美展」 高島屋賞
「第59回 東日本伝統工芸展」 奨励賞
2020 年 「増原嘉央理 高橋奈己-表現の形-展」（瀬戸市新世紀工芸館 / 愛知）
2021 年 「第12回 国際陶磁器フェスティバル美濃」 陶芸部門 入選
「第15回 パリミタ陶芸大賞展」 大賞

修了生の声



第 6 期
陶芸コース修了生
増原 嘉央理 さん

1985 年 北海道 出身
2004 年 英国留学
2008 年 武蔵野美術大学 造形学部 工芸工業デザイン学科 陶磁専攻 卒業
2010 年 瀬戸市新世紀工芸館 陶芸コース 修了
現在 （公社）日本工芸会 正会員・日本陶芸美術協会 会員

■ 今、どんな制作活動（作家活動）をしていますか。
研修了後も瀬戸を拠点として活動しています。市内には窯業関係の原料や道具の販売店があり、貸工房も多く、陶芸を続けていく環境が整っています。



第 12 期
陶芸コース修了生
小林 由依 さん

1990 年 愛知県春日井市 出身
2009 年 愛知県立瀬戸窯業高等学校 卒業
2014 年 愛知県立芸術大学 卒業
2016 年 瀬戸市新世紀工芸館 陶芸コース 修了
現在 瀬戸市内にて制作

2015 年 「koba 個展」（竊横力カフェ / 愛知）
2019 年 「koba 個展」（Galerie LA CACHETTE / 愛知）

■ 研修期間はどうか。
就職活動もせず大学院に行けるほどなかなか見出せなかった私は、卒業後に新天地として瀬戸市新世紀工芸館で2年間の研修生活をおくりました。新世紀工芸館での研修は課題や指導はなく、自主的な制作を支援してくれました。瀬戸窯業高等学校（現 瀬戸工科高等学校）専攻科や他美術系大学を卒業してきた人、ガラスという陶芸とは違った素材を扱う人たちが研修していて距離も近く、ときには作家として第一線活躍されている方がワークショップやレクチャーに特別講師として来てくださいました。海外からのレジデンス作家が訪れたときには、緒の空間で制作をし、2年間で多くの知識と機会と刺激を与えてくれました。

■ 新世紀工芸館での研修を決めた理由。
短期大学にてガラスを専攻したのち、美術の造形素材として歴史の浅いガラスを、瀬戸の主軸である陶芸を身近におくことでより広い視野から考えることができるのではと考えました。

■ 研修期間はどうか。
研修内容を自ら計画していくため、必要なものを取捨選択し、いかに展示や発表をしていくか、作家としての地力を身につけることができると感じました。

■ 当館での研修を考えている方へ。
これから作家活動をしていきたいと考えている人にとって、周囲に自分の表現を自立させてくれるための環境が整っていることはありがたいことだと思います。各自で設定した目標へ向かって自分の何が必要かを考えられ、試すことができる環境ではないでしょうか、作家としての基盤を作るには適している環境だと考えています。



第 10 期
ガラス工芸コース修了生

植村 宏木 さん

1990 年 北海道札幌市 出身
2010 年 秋田公立美術短期大学
工芸美術学科 ガラスコース 卒業
2014 年 瀬戸市新世紀工芸館 ガラス工芸コース 修了
2019 年 名古屋芸術大学 大学院 美術研究科 修了
現在 瀬戸市内にて制作

2018 年 個展「あえかに秘めるものへ」
（JR TOWER ART BOX / 北海道）
「富山ガラス大賞展 2018」
（富山市ガラス美術館 / 富山）
2019 年 「春爛漫 ポップ＆モダン」
（アートフロントギャラリー / 東京）
「collection/selection:10」
（GALLERY CAPTION / 岐阜）
個展「漂石と案糸」（蒲郡市博物館 / 愛知）
2020 年 「線に立つ」（Lights Gallery / 愛知）

瀬戸市新世紀工芸館

日本遺産に登録され日本六古窯のまちとして名を連ねる愛知県瀬戸市は、平安時代後期から続くやきものの産地として周知されてきました。また、瀬戸地域の陶土層には、ガラス工業の原料となる珪砂が豊富に含まれており、明治時代以降は国内有数の産出地として評価されてきました。つまり、歴史ある窯業地としての伝統と恵まれた原料を埋蔵する条件が整い、今日でも瀬戸市域には陶磁器を生業とした窯元の他、陶芸・ガラス工芸の作家が精力的に活動する工房や店舗などが数多く存在しています。

この様な制作に適した環境の中、芸術、文化に包括される美術工芸の発展と伝統的な技能や技術を修練すべく人材育成を掲げ、次世代へ引き継ぐ作品を展示し、広く普及活動に繋げ、陶芸・ガラス工芸の振興を図る目的として瀬戸市新世紀工芸館を開館いたしました。



研修制度

陶芸・ガラス工芸の基本的かつ専門的知識や技能・技術を修練するための人材育成事業として研修制度を取り入れています。

当館での研修制度は、自由な創造の場として、研修生が自らの目標を設定し、年間計画に基づいて、2年間の制作活動として続けることができます。

館内には、年間を通して、研修生が制作した作品を展示・販売するギャラリーが設けられています。その他に、「せともの祭」や「せと陶祖まつり」、各種イベント等への出品販売、そして年度末には当館の展示棟にて研修生修了作品展を開催するなど、作家活動の成果を発表する機会が数多く企画されており、支援事業としても充実しています。

また、当館では、陶芸・ガラス工芸にかかわる市民向け体験教室を実施しており、研修生は、その補助作業を担当し、普及啓発事業について学ぶ機会があります。



設備

■ 陶芸工房

電動ロクロ、土練機（真空・常圧）、セラローラー

- ・研修生には、それぞれ作業机や電動ロクロ、ストックスペースなどが割り振られています。
- ・空調設備も整い、快適な空間で制作ができます。

■ 窯場

ガス窯（2.0㎡：1基、0.5㎡：1基）、電気窯（10kw：2基、15kw：1基）

- ・2.0㎡のガス窯があり、大物の焼成も可能です。
- ・ガス窯焼成時には、研修時間の夜間延長を認めています。

■ 釉吹付室

吹付用スプレーガン、吸引機、コンプレッサー

■ ガラス工房

ガラス溶解炉（クローズドポッド）、グローリーホール、ベンチ、徐冷炉、電気炉（8kw、10kw、22kw：各1基）、ガレージ、小割切断機、平盤研磨機、縦軸研磨機、ベルトサンダー、ウォーターサンダー、サンドブラスター、アーク溶接機

- ・グローリーホール、作業用ベンチは各3基あり、同時に作業が可能です。
- ・電気炉は吹き場と同じ室内にあり、ピックアップや徐冷にも使用ができます。

■ 石膏室

真空搅拌机、石膏ロクロ

■ 施釉室

ポットミル、スタンパーミル、搅拌机

- ・施釉の他、木工、原型制作など様々な作業に使用できます。

アーティスト・イン・レジデンス

「瀬戸国際セラミック&ガラスアート交流プログラム」は、国内外の陶芸・ガラス工芸の優れた作家を招聘する瀬戸市のアーティスト・イン・レジデンス事業です。招聘する作家は、当館を拠点として、1か月以上にわたり研修生と同じ工房を使用して制作を行います。国内外の第一線で活躍する作家と共に活動、交流を深めることにより、陶芸・ガラス工芸に対する新たな展望が生まれ、国際感覚豊かな作品表現と展開を目指すことができます。



特別講義

■ 近年の特別講師（敬称略）

- | | |
|------------|----------------|
| 井上 剛 | （ガラス作家） |
| 板橋 廣美 | （陶芸家） |
| 内田 鋼一 | （陶芸家） |
| 扇田 克也 | （ガラス作家） |
| 加藤 令吉 | （陶芸家） |
| 唐澤 昌宏 | （国立工芸館館長） |
| 木曾 志真雄 | （陶芸家） |
| 城戸 保 | （写真家） |
| 小島 久弥 | （美術家・ギャラリスト） |
| サイモン・ワード | （陶芸家） |
| 佐々木 類 | （ガラス作家） |
| 大長 智広 | （京都国立近代美術館研究員） |
| 高橋 秀治 | （豊田市美術館館長） |
| 谷口 嘉 | （ガラス作家） |
| 長江 重和 | （陶芸家） |
| 拝戸 雅彦 | （愛知県美術館館長） |
| ピーター・ブレマース | （ガラス作家） |
| 松永 泰樹 | （陶芸家） |
| 道川 省三 | （陶芸家） |
| 宮路 雅行 | （インストレーター） |
| 向出 圭子 | （ガラス作家） |
| 吉川 正道 | （陶芸家） |

研修制度の一環として、研修生からのアンケートを基に陶芸・ガラス工芸を問わず、各分野の作家やアーティスト、学芸員やギャラリストなどに依頼し、ワークショップやレクチャー、作品の講評など様々な方法で特別講義を開催しています。

研修修了後

研修修了後は、市内外で貸工房を利用し、個人で作家活動を継続する例、陶磁器・ガラス関係の企業や工房に就職する例など様々な実績が報告されています。

その一方で、当館では、修了生を対象とした工房設備のレンタルを導入しており、制作環境の提供も行っています。また、瀬戸市では、「ツクリテ創業支援事業」を立ち上げ、ものづくりを目指す作家を対象に、市内での創業や事業相談を受け付け、工房の家賃や改修費の補助など様々な支援策を提供しています。



現役研修生の声



第18期
陶芸コース研修生
澤村 光李 さん

1999年 愛知県豊田市 出身
2020年 愛知県立瀬戸窯業高等学校
セラミック陶芸専攻科 修了

2019年 「第3回瀬戸・藤四郎トリエンナーレ」入選
2021年 瀬戸の若手作家市2021「碗・1グランプリ」優勝
二人展（星ヶ丘三越 / 愛知）
「第21・22回アートミラ」21展」
（愛知県美術館ギャラリー / 愛知）

■ 新世紀工芸館での研修を決めた理由。
瀬戸窯業高等学校 現 瀬戸工科高等学校（専攻科を修了した後、自分自身の造形表現をさらに深めたいと思い、カリキュラムのない新世紀工芸館を選びました。研修期間中に様々なイベントや出品の機会があることや、アーティスト・イン・レジデンスで滞在する海外作家さんの表現に触れることができるのも魅力でした。

■ 今後の展望ををきかせてください。
研修修了後を見据えて、すでに貸工房を見つけており、修了後は市内工房を制作拠点に新世紀工芸館での設備レンタルを利用しながら作家活動を行う予定です。作品一つ一つにしっかりと時間をかけ、密度のある装飾や大きなサイズの作品展開に取り組みながらギャラリやクラフトフェアへの出品、今後も独自の世界観から「奇妙な生き物」を生み出していきたいです。



■ 今後の展望を聞かせてください。
元々、大学時代は彫刻や平面作品を制作していたことから、ミクストメディアとしての作品展開もやっていきたいと考えており、「素材としてガラスの特性や可能性を自身の中で深めたい」と思っています。将来的には海外での発表も視野に入れて作家活動を継続していきたいと思っています。

■ 制作環境はどうですか。
現在、吹きガラスに重点をおいて日々制作をしています。以前は授業時間など吹きガラスは限られた時間の中での制作でしたが、新世紀工芸館ではこれまでよりも吹きガラスに当てられる時間が増え、技術面でも少しずつステップアップしていると実感しています。また独立への準備期間としても学校とは違い、工房設備について今後の制作に必要なスペースはどのくらいか、より作家として現実的な視点で考えることができる環境だと思います。

■ 新世紀工芸館での研修を決めた理由。
富山ガラス造形研究所でガラスについて2年間学んだ後、作家として独立する前に様々な人と関わりを持ちながらも少し素材について自身の技術や表現に磨きをかけたかと思っていました。先輩が新世紀工芸館にいたなどから、先生と実際に工房見学に訪れる中で、設備も整っていて制作に集中のできる環境だと感じ、新世紀工芸館での研修を決めました。



第19期
ガラス工芸コース研修生

日下 真梨子 さん

1996年 東京都 出身
2019年 武蔵野美術大学 彫刻科 卒業
2021年 富山ガラス造形研究所 造形科 卒業

2017年 「小平アートサイト2017」
2018年 「熱海アートウィーク2018」
2019年 グループ展「FRESH!」
2020年 「MONSTER EXHIBITION 2020」

